

平成25年10月20日執行佐賀市長及び佐賀市
議会議員選挙に関するアンケート調査結果報告書

佐賀市選挙管理委員会・佐賀市明るい選挙推進協議会

平成26年3月

1 アンケート調査実施要領

目的

佐賀市選挙管理委員会及び佐賀市明るい選挙推進協議会では、平成25年10月20日執行の佐賀市長及び佐賀市議会議員選挙において、前回の同選挙と比較し投票率が低下したため、市民の皆様の選挙に関する動向を把握し、今後の選挙啓発活動の参考にさせていただくことを目的にアンケート調査を実施した。

調査対象

平成25年10月の佐賀市長及び佐賀市議会議員選挙の選挙時登録の選挙人名簿登録者189,573人（男87,583人、女101,990人）の中から、市内44投票区の有権者数の比率により無作為に抽出した1,000人について平成25年11月21日に調査票を発送した。

調査日程

アンケート調査は、平成25年12月16日を回答期限とし、集計にあたっては、平成25年12月27日到達分までを対象とした。

（回答者数416人、回収率41.6%）

調査方法

抽出者に対して、調査票を郵送し、同封した料金受取人払いの回答用封筒で調査票を回収する方法で実施した。なお、調査票は無記名での回答とした。

2 回収結果について

◆回答者について

問1 あなたの性別をお答えください。

問2 あなたの年齢をお答えください。

問3 あなたの居住地をお答えください。

発送者に対しての回答の状況は全体で41.6%であった。その内男性が163人(39.5%)、女性が248人(42.2%)、無回答5人(1.2%)となっている。

年代別では、60代の回答率が57.1%と最も高く、以下、70代(52.8%)、80歳以上(49.0%)、40代(43.8%)、30代(35.9%)、50代(33.1%)、20代(19.7%)の順となっている。

また、居住地別では、三瀬村の回答率が65.8%と最も高く、以下、富士町(47.9%)、旧佐賀市(44.7%)、久保田町(40.2%)、東与賀町(39.7%)、諸富町(37.4%)、大和町(34.8%)、川副町(22.5%)の順となっている。

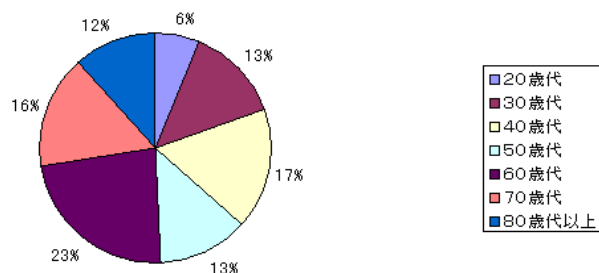
・性別

	発送数	回答数	回答率
男性	413	163	39.5%
女性	587	248	42.2%
無回答	-	5	-
合計	1,000	416	41.6%

・回答率

	発送数	回答数	回答率
20歳代	132	26	19.7%
30歳代	156	56	35.9%
40歳代	160	70	43.8%
50歳代	157	52	33.1%
60歳代	170	97	57.1%
70歳代	127	67	52.8%
80歳代以上	98	48	49.0%
合計	1,000	416	41.6%

・回答者の年齢構成



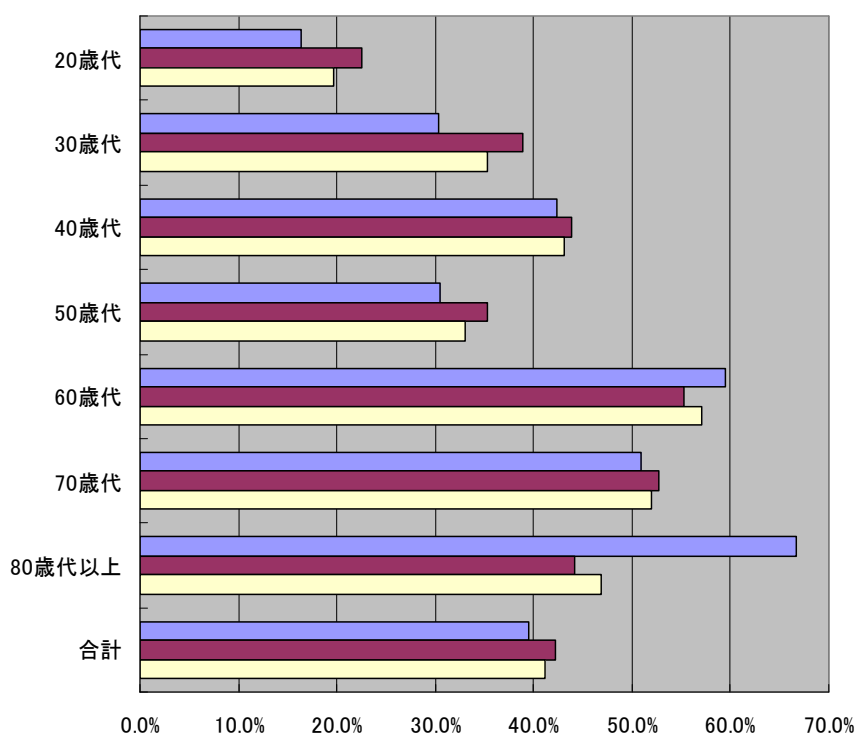
・居住地

	発送数	回答数	回答率
旧佐賀市	686	307	44.7%
諸富	48	18	37.4%
大和	95	33	34.8%
富士	19	9	47.9%
三瀬	6	4	65.8%
川副	76	17	22.5%
東与賀	35	14	39.7%
久保田	35	14	40.2%
合計	1,000	416	41.6%

・性別、年齢別、回答率

	男	女	計
20歳代	16.4%	22.5%	19.7%
30歳代	30.3%	38.9%	35.3%
40歳代	42.3%	43.9%	43.1%
50歳代	30.4%	35.2%	33.1%
60歳代	59.5%	55.2%	57.1%
70歳代	50.9%	52.7%	52.0%
80歳代以上	66.7%	44.2%	46.9%
合計	39.5%	42.2%	41.1%

※無回答の者は集計外とする。



◆選挙への関心について

問4 あなたは今回の各選挙について、どのくらい関心がありましたか。

a 市長選挙

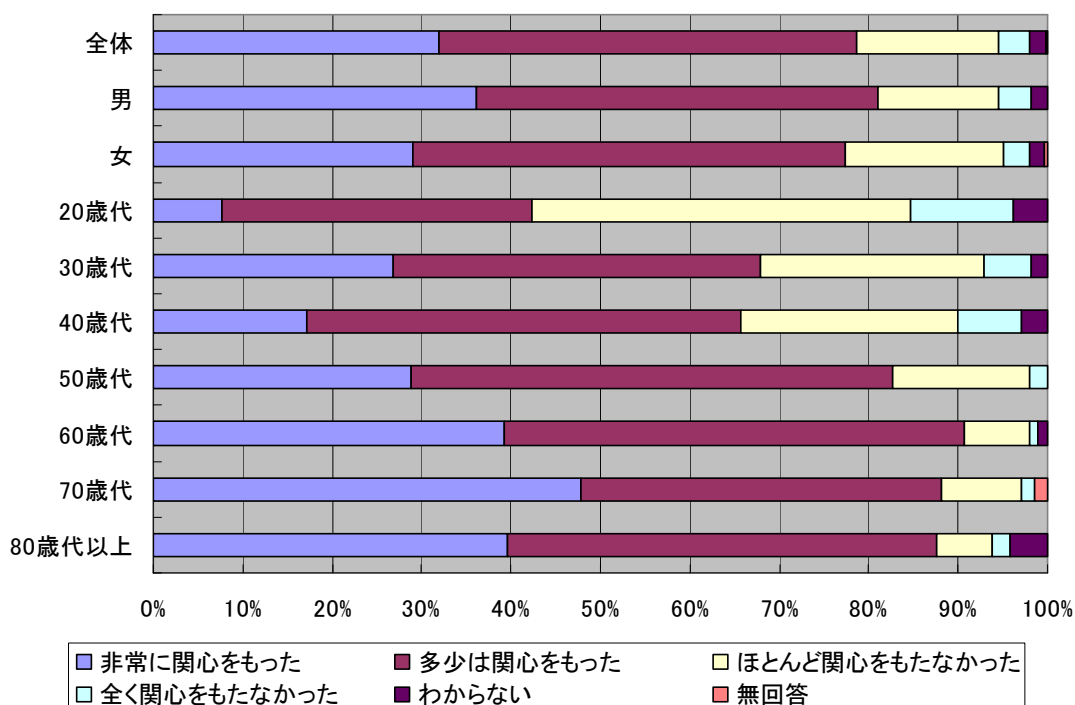
全体でみると32.0%が「非常に関心をもった」、46.6%が「多少は関心をもった」となっており、両者を合わせた「関心をもった」は78.6%で、「ほとんど関心をもたなかった」(15.9%)と「まったく関心をもたなかった」(3.6%)を合わせた「関心をもたなかった」の19.5%を大きく上回っており、大多数の回答者が関心をもっていたことが分かる。

性別でみると「非常に関心をもった」、「多少は関心をもった」は、男性で81.0%、女性で77.4%と、男性が3.6ポイント上回っている。

年代別でみると、「非常に関心をもった」、「多少は関心をもった」は、60代の90.7%が最も高く、70代(88.1%)、80歳以上(87.5%)、50代(82.6%)の順になっており、市長選挙への関心は高いといえる。

しかし、20代は42.3%であり、関心度は非常に低く、30代(67.9%)、40代(65.7%)も、関心度が低めであることが伺える。

さらに、20代では、「ほとんど関心をもたなかった」(42.3%)、「まったく関心をもたなかった」(11.5%)を合わせた「関心をもたなかった」が53.8%を占めている。



b 市議会議員選挙

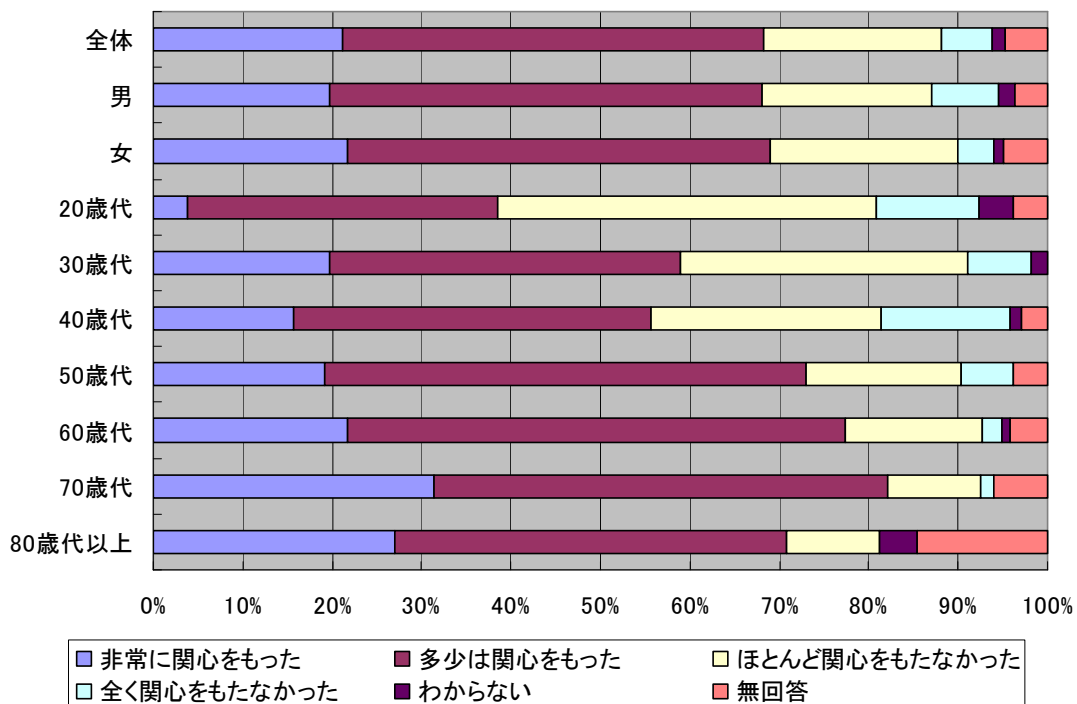
全体でみると21.2%が「非常に関心をもった」、47.1%が「多少は関心をもった」となっており、両者を合わせた「関心をもった」は68.3%であり、市長選挙と比較すると10ポイントほど低くなっているが、「ほとんど関心をもたなかった」(20.0%)、「まったく関心をもたなかった」(5.5%)の25.5%を大きく上回っている。

性別でみると、「非常に関心をもった」、「多少は関心をもった」は、男性が68.1%、女性は69.0%であり、男女の別による大きな差異はみられない。

年代別の比率で見ると、「非常に関心をもった」、「多少は関心をもった」は、70代の82.0%が最も高く、60代(77.3%)、50代(73.0%)、80歳以上(70.9%)の順になっており、関心度は高いといえる。

また、30代(58.9%)、40代(55.7%)は、関心度は低く、20代においては、38.4%という非常に低い割合となっている。

20代では、「ほとんど関心をもたなかった」(42.3%)、「まったく関心をもたなかった」(11.5%)を合わせた「関心をもたなかった」が市長選挙と同じく53.8%を占めている。



総体的に市長選挙より市議会議員選挙の関心度が10.3ポイント低くなっているが、前回の市議会議員選挙より候補者数が10人少なく(前回53人⇒今回43人)、回答者の地元からの候補者がいなかった投票区もあることから、このことも関心度が低かった要因のひとつと考えられる。

◆投票行動の有無について

問5 あなたは今回の各選挙について、投票しましたか。

(注) 本アンケート調査は無作為抽出法を使用したため、理論上は実際の投票率と近似値になるはずであるが、「両選挙とも投票した」は、調査結果（83.4%）が実際の投票率（59.23%）よりもかなり高い数値を示している。

要因としては、調査に協力した回答者は、潜在的に選挙に対する興味や関心が高く、実際に投票した人が多い傾向にあると考えられる。

全体でみると「両選挙とも投票した」は、83.4%であり、「両選挙とも投票しなかった」の11.5%を大きく上回っている。

性別でみると、「両選挙とも投票した」は男性が84.7%、女性は83.5%であり、男女の別による大きな差異はみられない。

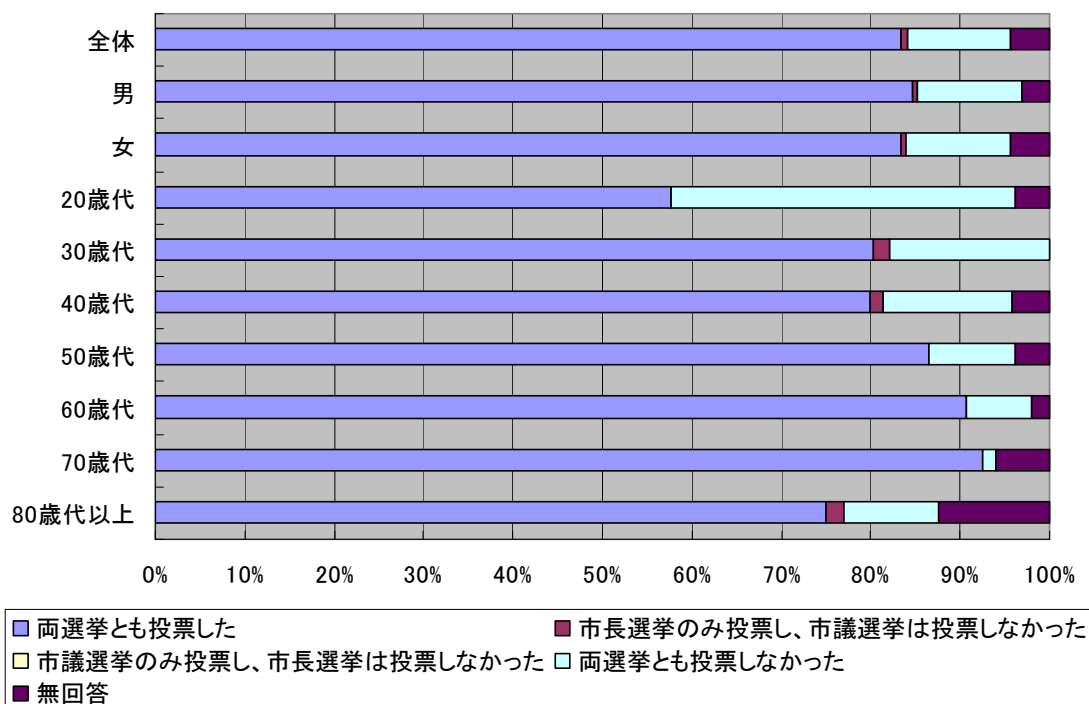
また、「両選挙とも投票しなかった」の割合は、男女とも11.7%となっている。

年代別の比率でみると、「両選挙とも投票した」が30代から70代までまとまりを持って上昇する傾向にあり、70代が92.5%と最も高くなっている。

なお、80歳以上も75.0%と投票意欲が高いといえる。

20代では、「両選挙とも投票した」は、57.7%となっているが、平成25年10月の市長選挙では、20代の投票率は33.46%であり、20代の3人に1人しか投票していないという結果になっている。

一方、「両選挙とも投票しなかった」は、70代から若い年代になるにしたがって、割合が高くなっており、20代が38.5%と最も高くなっている。



◆投票の動機について

問6 あなたが投票した動機はなんですか。

a 市長選挙

全体で見ると、「投票するのは住民の義務だから」が42.0%と最も高く、次いで「当選させたい候補者がいたから」(35.0%)、「今の政治を改めたいと思ったから」(11.2%)となっている。

性別で見ると、男性は「当選させたい候補者がいたから」(40.7%)、女性は「投票するのは住民の義務だから」(45.8%)が最も高くなっている。

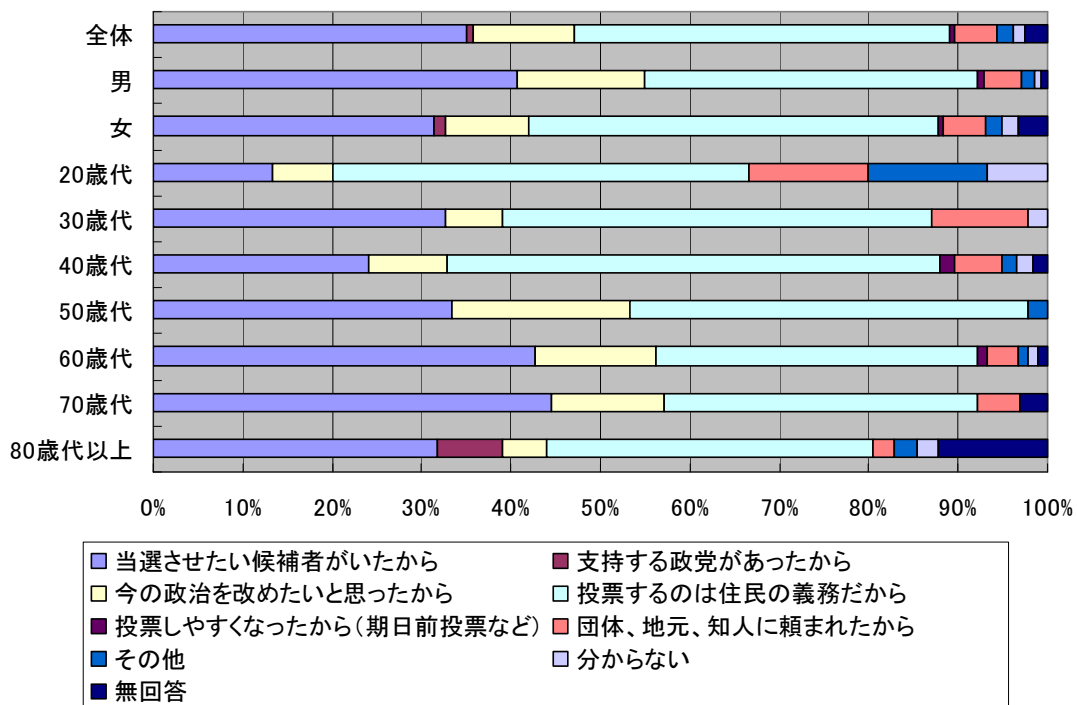
年代別で見ると、「投票するのが住民の義務だから」が、40代(55.2%)、30代(47.8%)、20代(46.7%)、50代(44.4%)、80歳以上(36.6%)で最も高くなっている。

また、60代、70代では、「当選させたい候補者がいたから」が、それぞれ42.7%、44.4%と最も高くなっている。

20代、30代に見られるのが、「団体、地元、知人に頼まれたから」と回答した人が、それぞれ、13.3%、10.9%となっており、他の年代と比較すると2倍以上となっている。

なお、50代には一人も見られなかった。

50代では、「今の政治を改めたいと思ったから」との回答が顕著で20%を超えている。



b 市議会議員選挙

全体でみると市長選挙と違い、「当選させたい候補者がいたから」が40.6%と最も高く、次いで「投票するのは住民の義務だから」(37.2%)、「団体、地元、知人に頼まれたから」(6.2%)となっている。

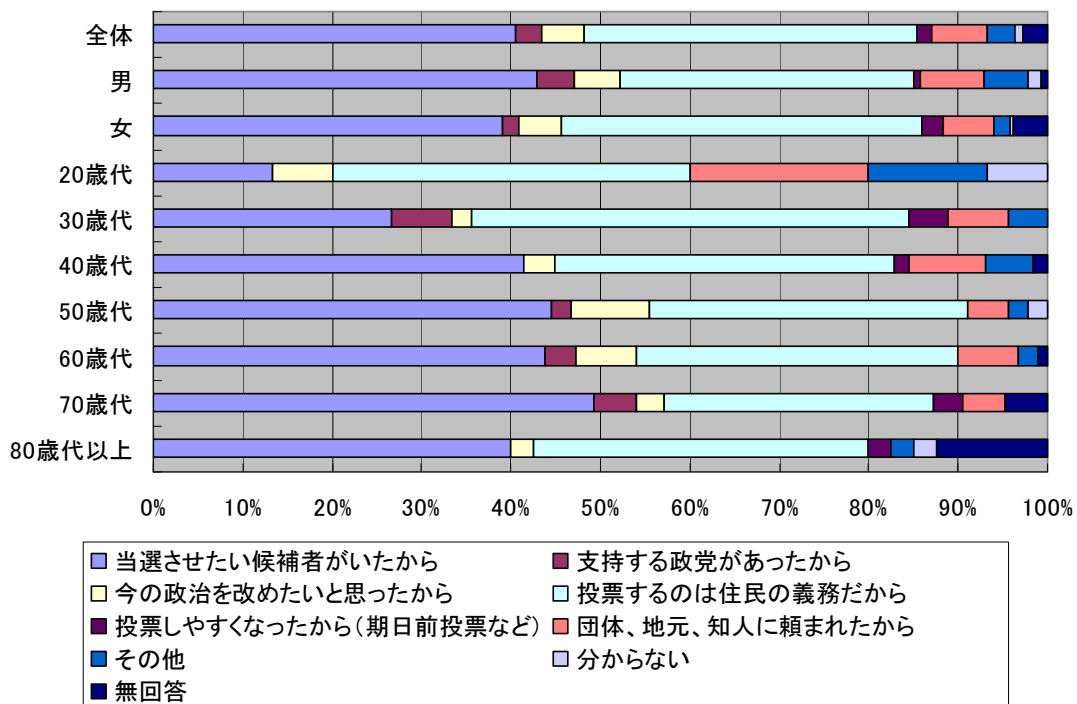
性別でみると、市長選挙と同じように、男性は「当選させたい候補者がいたから」(42.9%)、女性は「投票するのは住民の義務だから」(40.4%)が最も多くなっている。

年代別でみると、「当選させたい候補者がいたから」が、70代(49.2%)、50代(44.4%)、60代(43.8%)、40代(41.4%)、80歳以上(40.0%)で最も高くなっている。

しかし、30代では26.7%と低く、20代になると13.3%と最も低い。

30代、20代で最も高かったのが、「投票するのは住民の義務だから」で、それぞれ48.9%、40.0%であった。

また、「団体、地元、知人に頼まれたから」が、20代では20.0%と、他の年代と比較すると、かなり高いのが特徴的である。



◆投票に行かないことを決めた時期

問7 投票に行かないことを決めた時期についてお答えください。

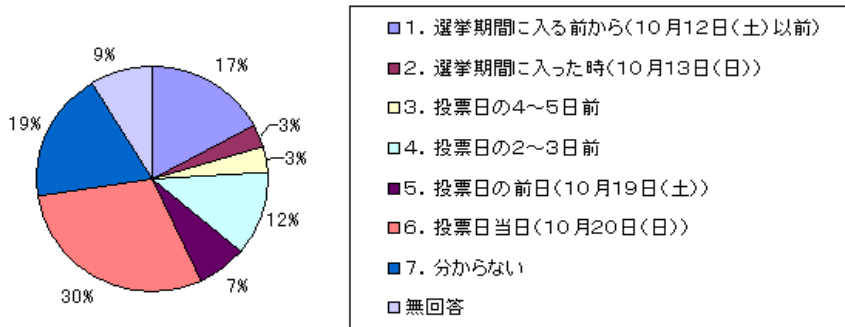
市長選挙・市議会議員選挙とも回答した対象者が少なく、設問ごとの年代別の棒グラフでの表示は省略した。

また、設問への回答割合もほぼ同じである。

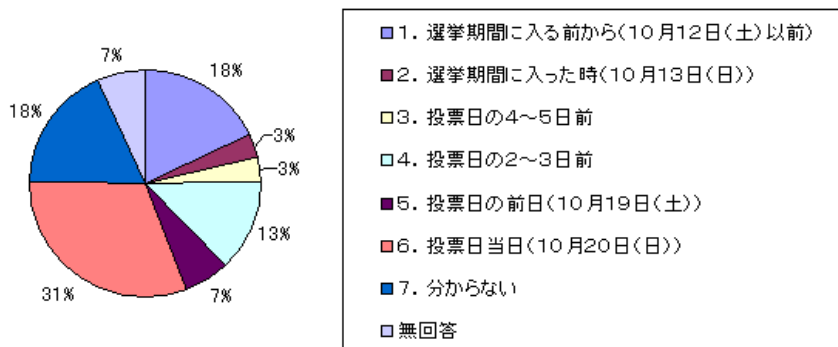
行かないことを決めた時期として最も割合が高かったのは、「投票日当日」の市長選挙で30%、市議会議員選挙で31%、次が「選挙期間に入る前」からが市長選挙で17%、市議会議員選挙で18%となっている。

「分からない」と回答した割合は、市長選挙19%、市議会議員選挙18%である。

・市長選挙



・市議会議員選挙



◆投票しなかった理由

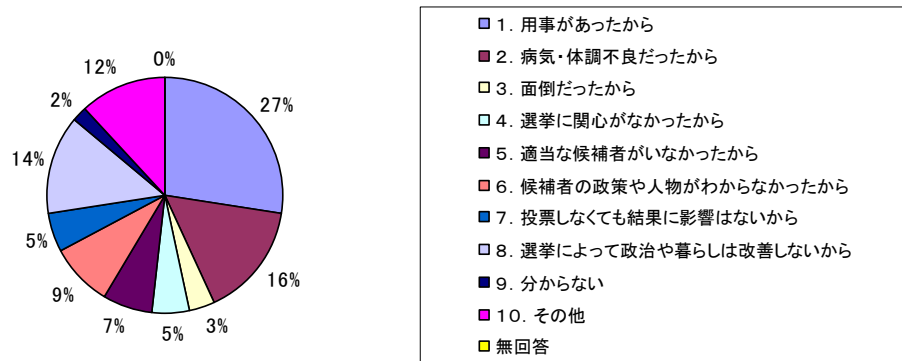
問8 投票しなかった理由についてお答えください。

この問についても回答した対象者が少なく、設問ごとの年代別の棒グラフの表示は省略した。

a 市長選挙

投票しなかった理由で最も多かったのは、「用事があったから」が27%で、次いで「病気・体調不良だったから」(16%)、「選挙によって政治や暮らしは改善しないから」(14%)となっている。

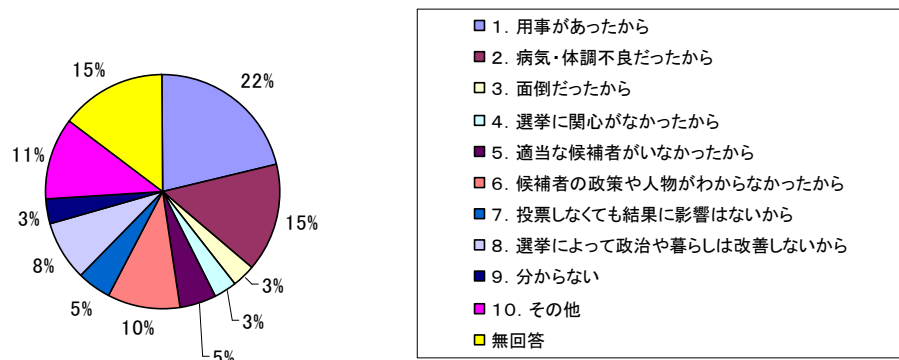
「選挙に関心がなかったから」(5%)、「面倒だったから」(3%)は比較的低く、用事や体調不良で棄権した人が多いことが伺える。



b 市議会議員選挙

投票しなかった理由で最も多かったのは、「用事があったから」が22%で、次いで「病気・体調不良だったから」(15%)、「候補者の政策や人物がわからなかったから」(10%)となっている。

「選挙に関心がなかったから」(3%)、「面倒だったから」(3%)は、市長選挙と同じく比較的に低い値である。



◆投票率の低下について

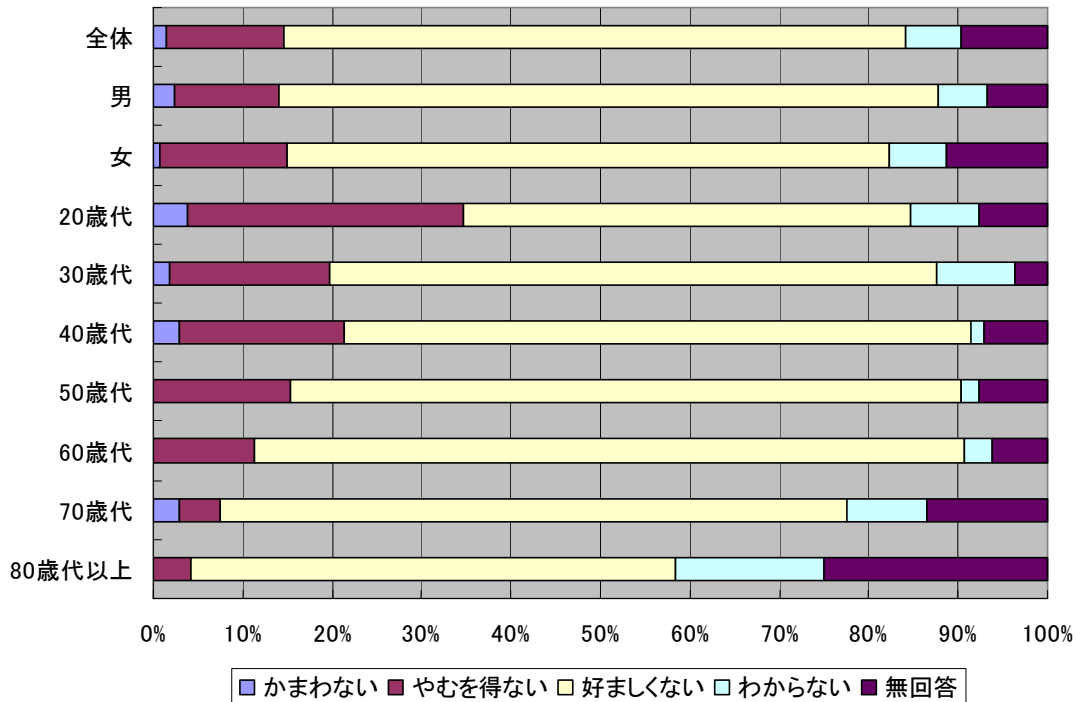
問9 あなたは投票率の低下について、どう思いますか。

全体でみると「好ましくない」が69.5%と最も高く、投票率の低下を否定する人が多かった。

性別でみると、「好ましくない」は男性で73.6%、女性で67.3%と、男性が6.3ポイント上回っている。

また、各年代層においても「好ましくない」と回答した割合が最も高くなっている。年代別でみると、60代が79.4%と最も高く、次いで50代(75.0%)、70代(70.1%)、40代(70.0%)、30代(67.9%)、80歳以上(54.2%)、20代(50.0%)の順である。

20代では「やむを得ない」(30.8%)、「かまわない」(3.8%)の両者を合わせると34.6%となり、若年層の投票率の低下に結びついていることが分かる。



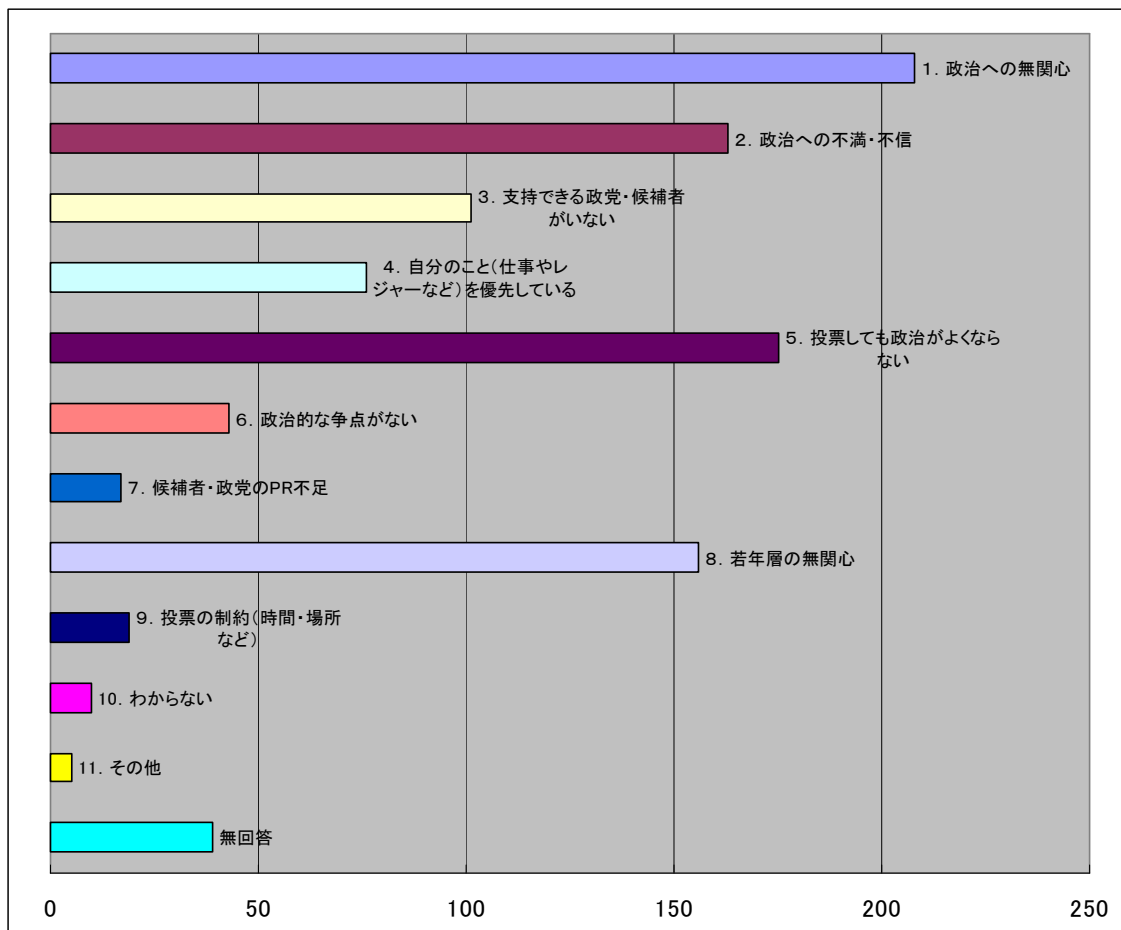
◆投票率が低い理由

問10 あなたは投票率が低い理由をなんでしょうか。(複数回答可)

今回の市長及び市議会議員選挙における投票率は、両選挙とも合併後最低の59.23%となった。

投票率が低い理由として市民の回答で最も多かったのが、「政治への無関心」、次いで「投票しても政治がよくなるしない」、「政治への不満・不信」、「若年層の無関心」、「支持できる政党・候補者がいない」、「自分のこと(仕事やレジャーなど)を優先している」、「政治的な争点がない」の順となっている。

少数意見として、「投票の制約(時間・場所など)」、「候補者・政党のPR不足」が挙げられている。



◆期日前投票制度について

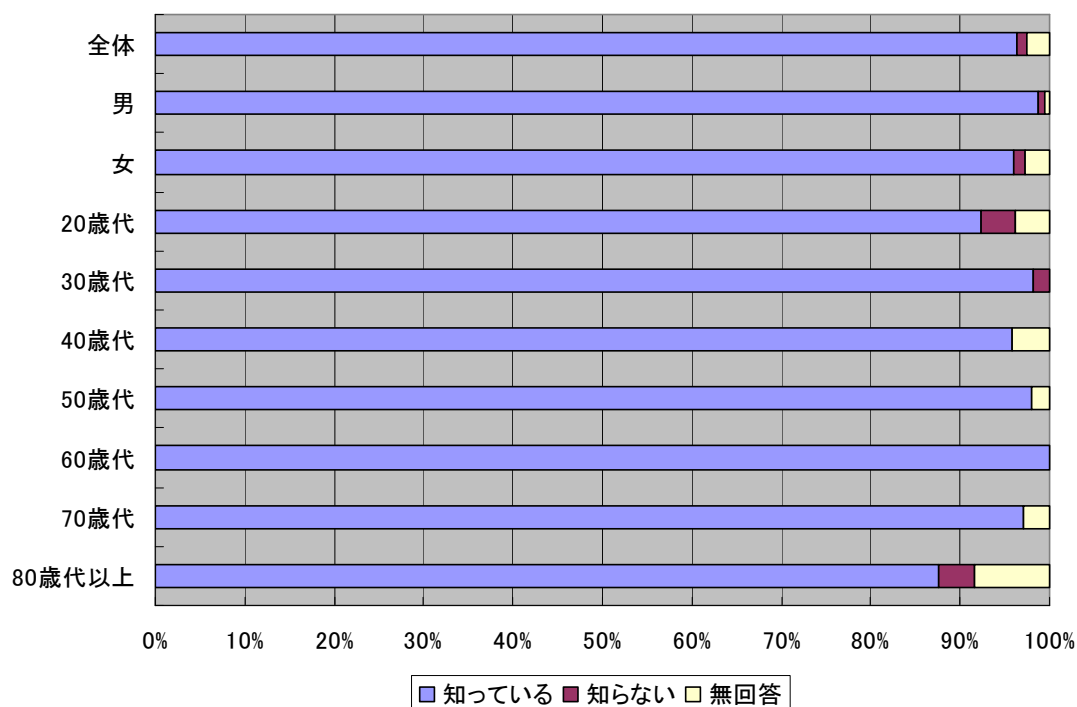
問 1 1 期日前投票制度を知っていますか。

全体で見ると、「知っている」と回答した人が96.4%であり、「期日前投票制度」の選挙人への周知は、ほぼ達成されていると見ることができる。

性別で見ると、「知っている」は男性が98.8%、女性は96.0%であり、男女別による大きな差異は見られない。

年代別で見ると、「知らない」と回答している割合は、80歳以上が4.2%、20代が3.8%、30代で1.8%である。

40代から70代までの人は、無回答を除くと、「知らない」と回答した人はいない。



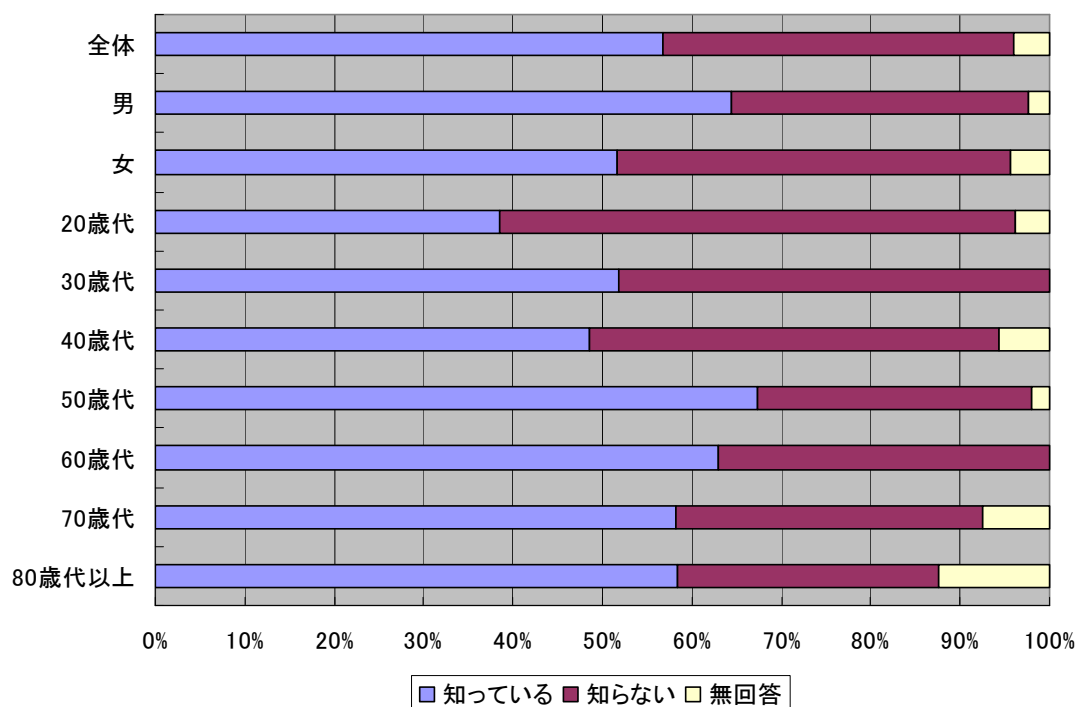
問12 住所に関係なく市内のどの期日前投票所でも投票できることを知っているか。(富士の期日前投票出張所を除く)

「期日前投票制度」の周知は、ほぼ達成されているが、どこの期日前投票所でも投票できることを「知っている」と回答した割合が全体で見ると56.7%である。

性別で見ると、「知っている」は、男性で64.4%、女性で51.6%と、男性が12.8ポイント上回っている。

年代別で見ると、「知っている」は、50代が67.3%と最も高く、次いで60代(62.9%)、80歳以上(58.3%)、70代(58.2%)、30代(51.8%)、40代(48.6%)、20代(38.5%)の順である。

「知らない」と回答した割合が全体で40%近くあるため、本庁・支所合わせて8箇所で行っている期日前投票所は、「住所に関係なくどこでも投票できる」ということの、さらなる周知が必要である。

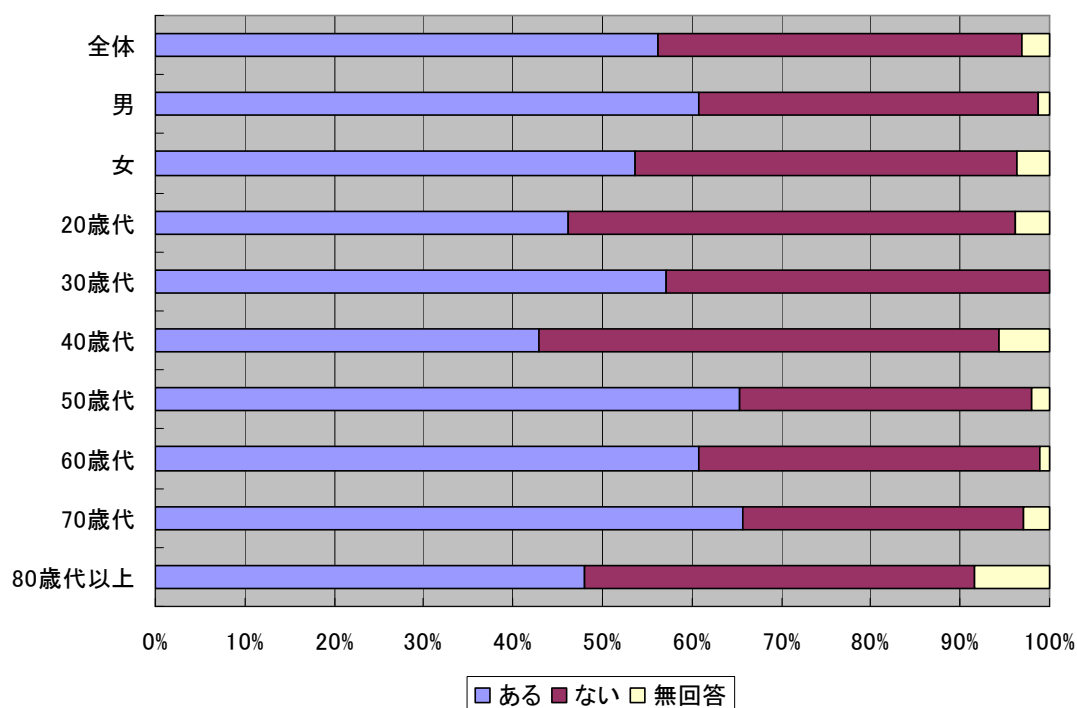


問13 期日前投票制度を利用したことがありますか。

全体でみると、利用したことが「ある」と回答した割合は56.3%であり、半数以上の人が期日前投票の経験をしている。

性別でみると、「ある」と回答した割合は、男性で60.7%、女性で53.6%と、男性が7.1ポイント上回っている。

年代別でみると、「ある」と回答した人の割合は、70代が最も高く65.7%、次いで50代(65.4%)、60代(60.8%)、30代(57.1%)、80歳以上(47.9%)、20代(46.2%)、40代(42.9%)の順になっている。



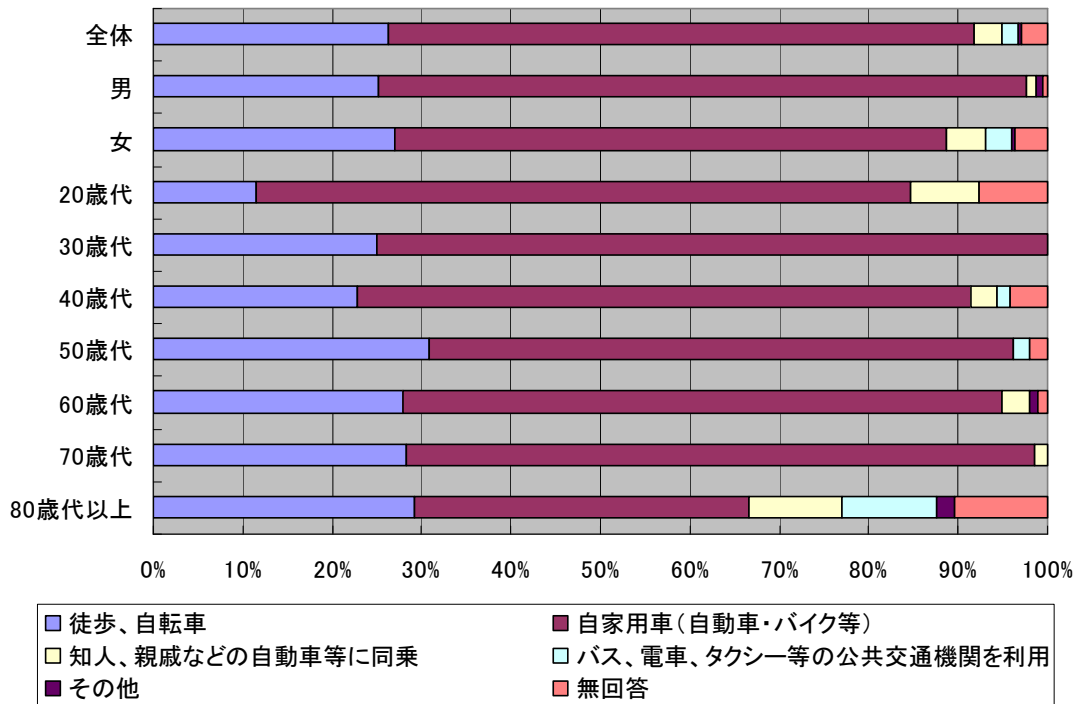
◆投票所までの交通手段

問14 当日の投票所までの交通手段をお答えください。

交通手段を全体でみると「自家用車（自動車・バイク等）」が65.6%と最も高く、次いで「徒歩、自転車」（26.2%）、「知人、親戚などの自動車等に便乗」（3.1%）、「バス、電車、タクシー等の公共交通機関を利用」（1.7%）、「その他」（0.5%）となっており、公共交通機関の便の悪さにより、自家用車を利用している人が多いことが伺える。

性別でみると、男女とも「自家用車（自動車・バイク等）」が最も高くなっており、男性で72.4%、女性で61.7%となっている。

年代別にみても、どの年代においても「自家用車（自動車・バイク等）」の利用が最も高くなっている。



◆投票所までの所要時間

問 1 5 当日の投票所までの所要時間をお答えください。

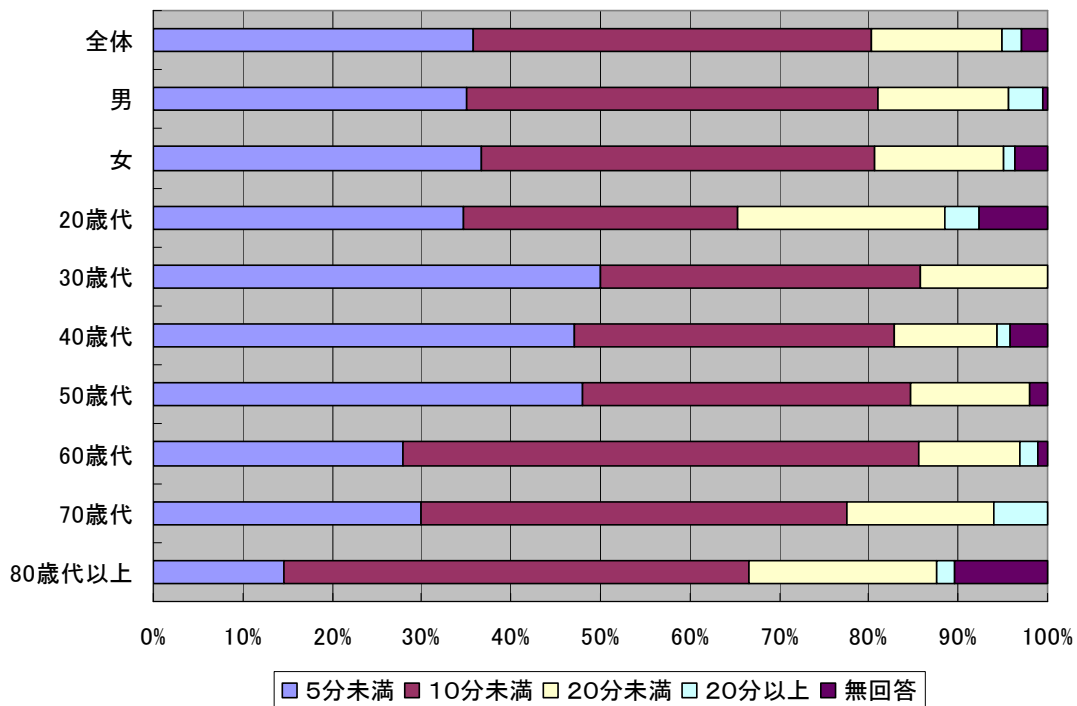
所要時間は、交通手段によって異なるが、全体で見ると、「10分未満」(44.5%)と、「5分未満」(35.8%)の両方で80.3%であり、自宅から投票所までの所要時間によって、投票率の低下は見られないと考えられる。

年代別にみると、80歳以上の人も、「10分未満」(52.1%)、「20分未満」(20.8%)、「5分未満」(14.6%)となっており、20分以内で87.5%の人が投票所まで到達できることになっている。

なお、80歳以上の10.4%は回答がなかった。

投票率が低いといわれている、20代でも「5分未満」(34.6%)、「10分未満」(30.8%)、「20分未満」(23.1%)であり、20分以内で88.5%の人が投票所に到達できる。

なお、20代の7.7%は回答がなかった。



◆印象に残っている選挙啓発

問16 次のうち今回の選挙で印象に残った選挙啓発は何ですか。(複数回答可)

印象に残った選挙啓発の方法別でみると、「新聞広告」が最も多く、次いで「広報誌（市報さが選挙特集号）」、「啓発ポスター」、「テレビスポット広告」、「街頭啓発活動（ゆめタウン佐賀）」、「横断幕、懸垂幕」、「市選挙管理委員会のホームページ」、「ラジオスポット広告」、「啓発物（ウェットティッシュ、入浴剤）」の順になっている。

「新聞広告」が最も多くなっているが、「新聞広告」については、「選挙公報」や選挙に関する記事も含まれていると推測される。

年代別でみると、30代から70代まで「新聞広告」が最多となっており、年代があがるとともに、新聞報道の重要性が増しているといえる。

また、80歳以上は、「広報誌（市報さが選挙特集号）」が最多となっている。

選挙啓発を「見聞きしなかった」と回答した人が、20代で31.0%、30代で19.3%もあり、他の年代と比較するとかなり高くなっている。

若い人の利用が期待できる、「市選挙管理委員会のホームページ」については、20代、30代で一人も見えていないということは、意外な結果である。

今回の選挙では、新たな啓発として「テレビスポット広告」、「ラジオスポット広告」を試みたが、放送回数も少なかったことから、選挙人の印象にはあまり残っていないことが伺える。

いずれにしても、選挙時の定番である「広報誌（市報さが選挙特集号）」や「新聞広告」を多くの選挙人が見ているという結果となった。

これらは、選挙時における臨時啓発の方法であるが、選挙人にとっては選挙情報を得るための重要な手段であるといえることから、今後もよりいっそう充実した内容で継続していく必要がある。

